

令和5年度学校評価											
学校教育目標 人格の形成をめざし、国家及び社会の形成者としての必要な資質を養うとともに、工業に必要な基礎的・基本的な知識、技術及び技能を身に付けさせることを目標とする											
島根県立出雲工業高等学校											
中期経営目標	令和5年度重点目標	評価計画		自己評価				学校関係者評価			改善策
		達成のための方策		生徒 数	保護 者	教職 員	総合	コメント		評価	
向 か っ て い く 学 力 の 育 成	基礎学力の向上	生徒の理解度に合わせ、補習等を実施しながら学力向上を支援する		3.2	3.2	3.3	B	・放課後学習の効果について、生徒の主体性を重視された点での効果に期待します。また、生徒の学習成果にどのような影響を与えたか把握されるよう望みます。 ・1年学年部における1人1台端末の利用による授業や課題の効率化では、生徒の学習への積極的な参加を促すために必要な活用策の工夫などの取り組みに期待します。 ・2年学年部および3年学年部の取り組みにおいて、進路指導や学習意欲の維持に関する施策の効果や資格取得や進路に向けた支援が生徒のモチベーション向上にどの程度貢献したか、学校関係者が施策の効果客観的に評価し、今後の改善や新たな取り組みの方向性を検討されるよう望みます。 ・多くの生徒が熱心に学習に取り組む姿を目にしている。目標をもって頑張っている、と感じている。 ・生徒個々の支援が行われていることを高く評価したい。方法の面で改善が図られることに今後も期待する。		A	・これまでの全校一斉の放課後学習は電車通学学生を中心に不満の声が多かったため、希望者のみ参加する形式を実施する。完全無言学習室と友人との教え合いができる教室を確保する。 ・授業の資料や課題の配布などのデジタル化を促進し、個人端末を活用する機会を増やしていく。 ・提出物の遅れがちな生徒については、未提出の把握に努め教科担当と連携し、放課後に未提出課題をさせるなどの対応を行う。 ・進路決定後の学習意欲維持のために、学年会などで施策を検討後実施し、実施後もアンケートなどを行い検証し、改善してきたい。
		家庭学習習慣や定期試験前学習習慣の定着を進める		3.0	2.7	3.0					
	ものづくり教育の推進	資格指導・検定試験に向けての指導・支援を行う		3.6	3.2	3.6	A	・各学科主任の協力により、進路に関わる各事業がスムーズに進められ、高く評価される。 ・機械科では、情報技術検定へ向けた支援や機械保全、溶接、旋盤などの技術取得を目指す生徒への指導が積極的に行われていることから、生徒一人ひとりの目標に合わせたサポートが行われていることが伺える。 ・インターンシップや企業見学を通して、生徒の進路意識が向上していることが評価されます。特に、県外企業見学などの体験が生徒の視野を広げ、進路選択に対する理解を深めることができていると感じました。 ・学級閉鎖により、イベントへの参加が制限された状況下で、学生のモチベーションを維持し発表・展示へ向けた取り組みが積極的に行われたことは評価が高く、限られた状況でも生徒の参加意欲や学習意欲を引き出す工夫がされてきた結果ではないでしょうか ・ものづくりのための学習環境が整えられている。 ・多くの見学者の学びは、学習意欲に繋がっていると感ずる。生徒の将来の進路にも大きく影響することであり、引き続き、大切な学びの場としての充実を図ってほしい。		A	・インターンシップや企業見学について、地元企業と協力し、より明確な意図をもって立案、実施してきたい。 ・資格検定試験について、各教科で検討し推進していく。ただし、ものづくりに関する資格では作業環境、工具などの整備が必要になる場合もあるので、幅広く募集できないものもある。
		資格・検定試験に意欲的に取り組んでいる		3.4	3.0						
		インターンシップや企業見学事業を充実させ進路意識を育成する		3.7	3.5	3.6					
広 が っ て い く 社 会 力 の 育 成	主体的・対話的で深い学びの推進	成果発表の場やさまざまな競技会に生徒を参加させ、生徒のモチベーションを高揚させる				3.4	A	・ICTの活用が進み、生徒が授業に主体的に参加するようになった。 ・通常の公開授業ではなく、教員が生徒役をするリハーサル授業を実施した。互いに新たな視点を得ることができ、充実したものになった。参加教員のアンケート結果を見ても満足度が高かったため、来年度も実施したい。 ・授業評価アンケートは各自で実施し、自己改善に努める形式であるが、管理職へ提出する必要があるかどうか検討しなければならない。		A	・リハーサル授業は好評であったため継続実施する予定である。その際にICTの活用方法を参加教員と協議・共有できるように授業者に活用例の紹介を依頼する。 ・授業アンケートの実施後の扱いは今後管理職と相談してきたい。
		教材や補助プリント、ICT機器を利用し、工夫した授業を行う		3.4	3.1	3.2					
		公開授業や生徒の授業アンケートを活用し、授業改善に努める		3.2	3.1	3.0					
	個に応じた進路指導の徹底	企業・進学説明会等の各種イベントを用いて、進路選択・決定を支援する		3.5	3.3	3.4	A	・コロナ禍やインフルエンザの流行などにより、学校行事も計画したとおりに実施できなかったことがあったと思いますが、その中でも可能な限り、生徒の進路にあたっては様々なアプローチにより、ほぼすべての生徒が就職・進学先が決定していることは非常に評価できます。 ・インターンシップ、企業見学などはコロナ禍では実施が困難であったと思います。生徒側はもちろん、企業側のニーズも高いことから、いろいろな選択肢を与える意味でも積極的な実施を期待しています。 ・特に就職率については、県内就職率が8割に近く、地元産業を担う人材の育成に大きく貢献されています。県外へ進学する生徒に対しても、将来Uターン就職するよう市内企業の紹介などが引き続き重要であると考えます。 ・各学年ごとに、目標を定め、生徒個人個人と向き合った進路指導が実施されていると感じています。また、前例踏襲ではなく、時代の流れ、情勢の変化に応じた取り組み方を考え、実施されていると思います。今後は、現在継続的に実施している取り組みを評価、効果の確認を行い、つねにブラッシュアップしより良い取り組みが実施されることを期待してまいります。 ・コロナ禍の中でも、進路活動が縮小されるところ、企業説明会や進学説明会が実施されたことは評価されます。さらに、1年・2年生向けの進路説明会を計画している点は、生徒の早期進路選択を促すための取り組みとして評価します。 ・1年・2年・3年学年部それぞれが生徒の個別ニーズに応じた進路支援を行っていること、特に、個別面談や進路イベントの実施など、生徒一人ひとりに寄り添った指導が行われていることから評価します。 ・今後も、生徒の進路選択や進路意識の向上に向けた取り組みが適切に行われ、生徒一人ひとりが希望する進路を実現できるよう支援されるよう望みます。 ・生徒一人一人の能力が発揮されるようきめ細やかな指導が実践されている。 ・生徒に寄り添った生徒指導をしておられると感じた。全生徒が進学、就職それぞれに内定できたことは高評価。		A	・各種行事に対して、生徒自身が自分事として参加できるように促したい。情報は与えられるものではなく、取りに行くものであることを理解させ、自らの進路決定をより良いものにできるよう情報提供の場を与えるようにしたい。 ・就職については、超売り手市場の継続が予想される中、3年生になってから慌てるのがないように、1、2年生から求人票の見方などの指導をしていきたい。 ・次年度はインターンシップなどの進路関連行事を通して、進路意識の涵養につなげていく。その上で、生徒一人一人に寄り添った面談や指導を行っていく。 ・教員間での報告・連絡、相談を密にし、学年部で協力しながら生徒への進路指導をおこなう。必要に応じて三方面談を行う。 ・早い段階で、進路意識を高めるられるように、面談を通しての進路相談、日頃から声掛けをしていきたい。また、生徒の進路情報や学年部で共有し、学年としての指導に一貫性をとめたい。 ・年度初めに各教科でゼミラベスを活用しながら、1年間学習の見通しを説明してもらうよう促す。 ・多くの授業で実施されている通り、授業の初めにその時間の目標を明確にして授業を開始することを願います。
		進学・公務員補習、就職面接指導等で個々の生徒への支援を行う		3.5	3.4	3.4					
		進路意識の涵養につなげたい。		3.4	3.2	3.3					
高 ま っ て い く 人 間 力 の 育 成	体験学習の推進	地域におけるボランティア活動や集団活動で社会貢献を進める		3.4	3.2	3.0	A	・ボランティア活動に対する予算を設け、様々な活動を下支える態勢を整えている。生徒会や各部活動のボランティア活動を支援することでできた。 ・課題研究では各学年の発表を設け、プレゼン力については向上している。2年生からは各自chromebookを持っており、プレゼン力に期待が持てる。探究力については、1年次からの取り組みを考えていく必要がある。		A	・地域の皆様と連携を取りながらボランティア活動に参加する機会を増やしていきたい。 ・各科とも課題研究では各学期1回の発表を行い探究に関する力、コミュニケーション力の向上に取組んでいる。また、課題研究発表会での発表・展示を通しての表現力も向上させている。 ・外部との連携については、定期的に各科で情報交換して状況と共有していく。
		実習、課題研究、卒業設計等で生徒の探究力・プレゼン力を育成する		3.5	3.2	3.2					
		学園祭、球技大会、委員会活動を通じて生徒の自主的な活動を支援する		3.6	3.5	3.5					
	生徒支援の充実	スクールカウンセラーや外部専門機関と連携して支援を進める		3.5	3.3	3.7	A	・スクールカウンセラーだけでなく、I-ROOMや社会福祉士にも多くの相談を行い、連携する機会が増えた。専門的な助言が得られたい支援が実施できるようになった。 ・新型コロナウィルス感染症が第9期に発生したこと、個別の健康観察は終了した。その後も星の放送を継続することで、県内の感染症流行状況や気候に応じて、必要な呼びかけを続けている。 ・(1年学年部)保健教育相談部と連携して生徒面談や保護者面談を行い、生徒一人一人に向けた支援を考え、実施してきた。また、スクールカウンセラーやI-ROOMとも繋がり、個別の困りへの支援を行った。 ・(2年学年部)学年会を定期的に開催し、学年の生徒の情報を共有した。今後も継続してきたい。 ・(3年学年部)学年会を定期的に開催し、学年の生徒の情報を共有することで、生徒指導に活かした。		A	・近年は、様々な要因で悩みを抱える生徒が多くなっていると感じます。体調はもちろん、精神面でケアも必要であろうかと思いますが、家庭が要因となるものについては、なかなか適切なアプローチが困難だとは思いますが、現在取り組んでいる支援を継続し、日頃からの情報の把握に努めていきたいと思います。 ・この取組は多くの生徒を助けることにつながると安心感を与えらるかと考えます。 ・生徒一人一人に配慮した取り組みが実施されていると感じます。また、教員間での情報共有もしっかりとされており、問題発生時など課題解決に向け早急な対応が取られていると感じます。 ・近年、特別な支援を必要とする子供が増えている。子ども家庭庁が発足し、義務教育段階では様々な支援を医療・福祉関係機関と連携を図りながら療育環境の整備が進められている。中学卒業後も切れ目のない支援が受けられるよう、関係機関等との連携を図っていただきたい。取り組みとしては、保健教育相談部と連携して生徒面談や保護者面談を行い、生徒一人一人に向けた、個別の困りへの支援が行われており評価できる。 専門家の人員配置と連携し、できる保健室経営がなされていると感じます。
		健康観察、保健室指導、保健だより等で生徒の健康意識を育成している		3.5	3.2	3.5					
		教員間の情報共有や連携を図り、特別支援教育を進める				3.4					
出 エ ィ ン ベ ィ シ ョ ン の 展 開	基本的生活習慣の確立	遅刻・頭髪・服装の指導を日常的・定期的に行う		3.7	3.6	3.3	A	・個人の個性を尊重しながら、一定のルールを遵守することは全く違うことであり、粘り強く指導していく必要があると思います。先生方にとっては、非常に指導方法にも気を遣う必要がありますが、とく、自分の意見を言うことができている若者が増え、就職してから苦勞する声も聞かれます。学生時代にとりかかり地域の人々ともきちんとコミュニケーションがとれる人材を育成していきたいです。 ・学校行事において、生徒が自主的に考え、動機・習慣を身につけることで、チームワークや協力といった社会人に必要なことが理解できると思います。 ・物づくりを中心として生徒が主体となり、理想とする目標を定め、そこから現状を把握し、課題を見つけることができる取り組みが実施されていると感じています。 ・企業等へのアポイント取りや聞き取り調査なども生徒自身が実施することで、教師、クラスメイトとのやり取りだけでなく、外部関係者及び協力機関とコミュニケーションを取ることできる環境は実業高校特有のものであり、今後、更に充実したものになることを期待しています。 ・体験学習が一過性の体験にとどまらず、継続的に社会貢献意識が維持されるよう、将来、企業市民として社会の共同利益のために果たす役割や意義、地域課題と向き合う姿勢を学んでもらいたい。 ・進路に適切な学習がブラッシングされており、生徒の学習意欲につながっていると感じます。		A	・校則については教職員の共通理解を図り指導していきたい。また交通ルール・マナーの指導を再確認し、生徒の登下校時の安全確保に努めたい。 ・遅刻や服装などの基本的な生活習慣に関しては、継続して声掛けを行っていく。 ・卒業後を見据え、余裕をもった行動と規則正しい生活を指導を継続する。 ・校内の規則について継続して指導していく必要がある。また、時代に合った規則を検討してことも必要である。
		挨拶指導や接遇指導を日常的・定期的に行う		3.4	3.2	3.1					
		自転車点検、街頭指導、実習指導、避難訓練等で安全意識を育成している		3.6	3.4	3.3					
	部活動の推進	綿密な計画を立て、生徒が充実感・達成感を感じるような活動にする		3.5	3.1	3.4	A	・制約がなくなってきたとはいえ、各々が活動しやすい環境づくりを心がけた。また、各部活動の練習計画については部活動ごとに作成をしている。生徒・保護者に対して早めに提示を行ってきた。 ・部活動を通して人と協働することや規範意識を高める		A	・活動指導員、地域連携指導員、地域指導者の皆様と連携を取りながら部活動の指導に取り組んでいきたい。生徒・保護者への連絡を密にし、計画的な練習に取り組んでいきたい。
		部活動を通して人と協働することや規範意識を高める				3.4					
学 校 生 活 の 充 実	人権教育の推進	各種講演会等を計画的に実施し、道徳教育を進め、人権意識の育成を行う		3.4	3.1	3.3	A	・人権教育について、様々な取組を実施されており、学校として非常に熱心に取り組んでいることがわかりました。人権教育は生涯教育でもありますので、引き続き取り組んでいきたいです。 ・生徒の意識は学校教育だけではなく、家庭での意識啓発も重要であると思います。生徒の発行により、家族への意識啓発ができている点はとても評価できると思います。 ・人のことを思いやることのできる指導、取り組みが積極的に実施されていると感じています。 ・先生方の協力により、講演会やホームルーム活動、通信の発行など様々な手段を用いて生徒に人権意識を啓発する取り組みは、生徒の自己成長や他者への配慮を促すための活動が行われており評価できる。 ・計画的で熱意のある指導によって人権の大切さが生徒に伝わっている。		A	・各学年の生徒の実態や、現在起こっている人権課題を動機したHR活動心をかける。 ・教育活動全体が人権教育であることを教職員全体に改めて確認する。 ・新しいクラスでの仲間作りを起点に仲間意識の向上に務めた。今後も講演会やホームルーム活動などを通して、他者の思いを大事にできる人間関係の構築を目指したい。 ・携帯電話による人権侵害や肖像権の侵害などの問題が増えている。情報リテラシー教育を定期的に行う必要がある。 ・生徒にとっての身近な事例をあげ、普段から他者を思いやるような指導を心掛けた声掛けを行う。
		ホームルーム活動や通信の発行で、啓発活動を行う		3.4	3.1	3.3					
		出雲工業高校に入学して良かったと思っている		3.5	3.7						
	出工コンソーシアムの構築	企業や行政など地域と連携した教育活動を行っている		3.4			A	・市の環境エネルギー部との取り組みや地元企業との連携により、地域課題の把握や改善に向け、一緒に取り組めたことは生徒にとって非常に貴重な経験であったと思います。 ・地域や企業の本校への信頼度もアップし、魅力化工場につながっていると思います。 ・外部関係者及び協力機関とコミュニケーションを取ることできる環境は実業高校特有のものであり、今後、更に充実したものになることを期待しています。 ・コンソーシアムの構築によって子どもたちの生き生きとした姿が、一人でも多くの子どもたちに、地域課題と向き合い社会とのかわりの中で、住み方、暮らした方など、自ら豊かさを追求し、社会に貢献できる人材の育成を図ってもらいたい。 ・ものづくりを意欲した学びの場が工夫されている。 ・多くの企業等と連携できているのが伺える。		A	・各科に予算がついており、各科の進捗状況を科長会で確認する。
		学習評価方法の検討		3.1							
入 学 者 数 確 保 の 取 組 み	入学者数確保の取組み	新教育課程へ向け、教育課程の検討を行っている		3.1			B	・評価方法は統一した基準がある方がよいと思いますが、評価に用いるプラス材料、マイナス材料があり、評価によって気づきや自信を与えることになります。先生方にとってはとても悩ましいものではありますが、評価が与える個人への影響を理解していただき、効果的な活用をお願いします。 ・しっかりと検討を重ね、課題を明確化しより良い評価ができるようになることを期待しています。		A	・観点別評価を5段階にする際はその妥当性を検証する必要性を感じている。各教科の意見を早い段階で集約し、1学期の評価を出すまでに周知したい。
		一日体験入学、オープンスクールや中学生保護者への説明活動を充実させている		3.6							
		広報誌・HP・マスメディアを活用し、広報活動を充実させている		3.3	3.2	3.0					
	学習評価方法の検討	一日体験入学やオープンスクールの実施が非常に効果的だと感じています。特に一日体験入学には昨年よりかなり多く中学生の参加があり、高校への関心が高いことがうかがえます。					A	・評価方法は統一した基準がある方がよいと思いますが、評価に用いるプラス材料、マイナス材料があり、評価によって気づきや自信を与えることになります。先生方にとってはとても悩ましいものではありますが、評価が与える個人への影響を理解していただき、効果的な活用をお願いします。 ・しっかりと検討を重ね、課題を明確化しより良い評価ができるようになることを期待しています。		A	・オープンスクールはこれまでと異なる形式で計画している。部活動の体験にしっかりと時間を割くことができるように期待している。同時に、昨年の参加者のうちどの程度の人数が出願、受検しているかを検証し、中学生のニーズを把握したい。 ・入学者の生徒にはHPの内容について詳しく調べている受検生もあり、ホームページのアップを各科頻りに行うよう促す。
		体験入学、オープンスクールを推進して日程に工夫を加える。 今年度は残念ながらHPでの広報が十分にできず、反省している。 次年度はもっとHPでの広報を充実させたい。									

自己評価の区分 A:よくできている(3.2以上～4.0未満) B:概ねできている(2.6以上～3.2未満)
C:やや不十分である(2.0以上～2.6未満) D:不十分である(1.0以上～2.0未満)